

施設トマト栽培のマルハナバチに対する農薬の影響について

トマトの施設栽培においては、ホルモン処理労力の軽減からマルハナバチを放飼する生産者が増えている。しかし、マルハナバチもミツバチと同様に農薬に弱く、農薬散布後にハチが飛ばなくなるといった事が起こる。マルハナバチへの訪花活動への影響は、農薬の種類等によって当然異なるが、基本的には、なるべく病害虫を発生させないような管理を心がけることである。育苗期の防除やハウス周辺の雑草防除を行うことや、また特に害虫は早期発見に努め、早期防除を実施することも大切である。

1. 指導上の注意事項

- ・マルハナバチは例え水であっても低温時に全身が濡れると行動に異常をきたすおそれがあるので、影響のない農薬であっても、巣箱はハウス外に出しておく。
- ・巣箱の移動は、農薬散布前日の夜、ハチが帰巢してから行う。
- ・低温期には農薬の影響は長期にわたる場合があるので、散布後の影響は必ずしも一定しない。

2. マルハナバチの訪花活動に対する農薬の影響

影響のある日数	殺菌剤	殺虫剤
翌日から放飼可能	アフエットフロアブル、アミスター20フロアブル、アミスターオプティフロアブル、イオウフロアブル、イデクリン水和剤、エコピタ液剤、園芸ボルドー、オーソサイド水和剤80、カスミンボルドー、銅ペーパー水和剤、カリグリーン、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤、サンクリスタル乳剤、サンヨール、ジーファイン水和剤、ジマンダイセン水和剤・フロアブル、ジャストミート顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、セイビアフロアブル20、ダイマジン、ダコニール1000、トップジンM水和剤・ゾル、トリフミン水和剤、バシタック水和剤75、ハーモメイト水溶剤、パンチョTF顆粒水和剤、フェスティバル・C・水和剤、フルピカフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、ベルクート水和剤・フロアブル、ベルクローブ水和剤、ペンコゼブフロアブル、銅水和剤、ベンレート水和剤、ボトキラー水和剤、ホライズンドライフロアブル、ポリオキシシンAL水溶剤・水和剤・乳剤、ライメイフロアブル、ランマンフロアブル、リドミルゴールドMZ、ロブラール水和剤・500アクア	アニキ乳剤、アブロード水和剤、アブロードエースフロアブル、ウララDF、エコピタ液剤、オレート液剤、カウンター乳剤、コロマイト乳剤、サフオイル乳剤、サンクリスタル乳剤、チェス顆粒水和剤、トリガード液剤、粘着くん液剤、ノーモルト乳剤、バリアード顆粒水和剤、BT剤、ファルコンフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブル、プレバソンフロアブル5、ベネビアOD、ベリマークSC、ボタニガード水和剤、マッチ乳剤
1～3日		ディアナSC、モスピラン顆粒水溶剤
2日		アフアーム乳剤、カスケード乳剤
3日		アーデント水和剤
3～5日	モレスタン水和剤	
3～7日		スピノエース顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤
4日		アタブロン乳剤
9日		コテツフロアブル
10日以上		ベストガード水溶剤、スタークル粒剤、アルバリン粒剤
7～14日		アグリメック
14日		バイデートL粒剤、カルホス粉剤
14日以上		アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、ネマキック粒剤、ロディー乳剤
15日以上影響する農薬 ※()内は影響日数	ガスタード微粒剤(21日)、バスアミド微粒剤(21日)、クロールピクリン(28日)、ドロクロール(28日)、クロールピクリン錠剤(28日)、ソイリール(28日)	アクタラ顆粒水溶剤(42日)、アクタラ粒剤5(21日)、アグロスリン水和剤・乳剤(20日以上)、アドマイヤー1粒剤(35日以上)、アドマイヤー水和剤・顆粒水和剤・フロアブル(30日以上)、アディオン乳剤(20日以上)、オルトラン粒剤(14～30日)、ダントツ水溶剤(15日以上)、ダントツ粒剤(21日)、ディ・トラベックス油剤(28日)、トレボン乳剤・EW(20日以上)、ベストガード粒剤(30日以上)、マラソン粉剤3(30日)、ミネクトデュオ粒剤(21日)、モベントフロアブル(45日以上)

*マルハナバチ影響日数は日本生物防除協議会「天敵に対する農薬の影響の目安の一覧表・最新版及びメーカーのデータ等から引用した。